



大山にもゴンドラがあれば



沢田正己議員

大山頂上までゴンドラを 現在では無理

そこで一年中使えるゴンドラを作り、観光客を頂上まで運ぶようにしたらどうかと思う。松江のフォーゲルパークには、頂上まで上がるリフトがあり、下に網が張ってあって危険性もなく、観光客も多い。全国的に有名な大山にゴンドラで頂上まで登ることができれば観光客も増えることは間違いない。

問 市町村は、地方分権及び三位一体改革による地方交付金の減額により財源不足になっている。国の施策は自主財源で財政を補うよう指導している。幸い我が町は、大山という宝の山がある。他町の町民は、大山で大分儲かっているとやっているが、冬季の3カ月間だけリフトが稼動してはなかなかもうからない。

答

(山口町長)

「大山を核としたまちづくり」を推進することにより、町全体が元気になっていくと常々言っている。観光でもうけるべ

また、大山の頂上に、もう上がることはないだろうと思っていた高齢者も、ゴンドラがあれば、気軽に上がってみようかと思うようになる。どう考えるか。

きだという提案は全く同感である。

以前、旧大山町で検討したことがあったが、課題が多いことが分かった。駐車場から山頂まで12人乗りのゴンドラ式ロープウェイを設けた場合、建設費の30億とその他の施設で合わせて35億円ぐらいが必要となり、採算性からみて問題と思われる。また自然との調和から、

大山の景観にかなり影響を与えることになる。自然公園法及び同法施行規則等の諸法令によると、想定される地域の大部分が第一種の特別地域、特別保護地区となっていて原則的に建造物の設置ができないこととなっている。現在では無理と思われる。



遠藤幸子議員

団塊の世代を地域参画へ 受け入れの体制作りが大切

域で発揮して、町の活性化につながることは必要と考えている。従来からの施策に加え、新たに地域の遊休資源の活用や、人材活用システムの構築を図っていききたい。

UJイーターナーの受け入れ策として、地域の空屋、宅地、店舗と併せ、遊休地の有効利用を図るとともに、UJイーターナーの不安を解消する為、

アドバイザーの養成と活用に努めたい。

だいせんファンクラブ会員を中心に、町の情報を発信し、定住化促進施策に取り組んでいく。

情報を発信したり、場づくりも行政の役割にはあると理解しているが、地域の受け入れ体制作りを、住民の方たちとともに作っていくことも大切であると考えている。

問

2007年より団塊の世代が定年退職を迎える。豊富な経験や能力を地域の活性化、まちづくりに活かせないか。また職から離れて、地域に帰ってきた人たちに、情報提供、きっかけ作りなどは考えていないか。県外の人たちにどんな情報を発信しているか。

答

(山口町長)

豊富な経験や能力を地



関西ふるさと交流でも大山町をPR